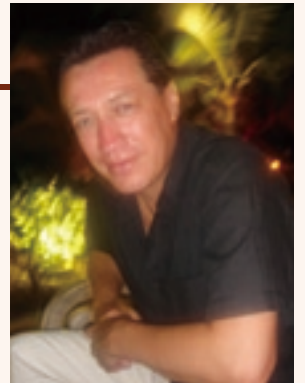


# Emanuel Flutes, Boston

## 製作者:エマニュエル・アриста

ペルー、リマ生まれ。高校時代より音楽・芸術・製作技術へ興味を示す。ヘインズでケース製作をしていた兄、ミゲル・アристаにケース製作の依頼を受けたことがきっかけでフルートの世界へ進出、後にボストンの多くのフルートメーカーに採用された。その後、ミゲルよりピッコロのパーツ製作の依頼を受け、先進的なツールや機械のない中、これを数ヶ月で完成。1976年、アристаピッコロが発表される。さらに、ウエントワース工科大学で機械作動と工具製作を研究。1978年NFAコンベンションでアристаフルートを発表。1985年にアристаフルートより独立。ジャック・ムーアやエドワード・アルメイダの支援により、1991年に自身のブランド「エマニュエル フルード」を設立。同時にワシントンのコンベンションにて#1モデルを発表。コンベンションへの出展により、エマニュエルフルートは多くのプレイヤーに認められ、#4モデルはマクサンス・ラリュエが購入している。現在、アトランタ交響楽団、ダラス交響楽団、オランダ交響楽団などで使用され、完成度の高さと豊かな音楽性は各国で注目されている。



ほどよい輪郭と独特な音の密度は、まるでアメリカの古き良き時代の音を継承しているかのよう。古いというと操作が難しいイメージですが、エマニュエルの頭部管は息がスムーズに入る点ではモダンな仕上がりになっています。頭部管のスタイルは、ルイロットをイメージしたルイロット(LT)タイプ、さらに個性を強くしたゴーベール(G)タイプに代表されます。他に、明るめで軽い吹奏感の“L”少しふくよかさが加わり音に色彩感を付けやすくした“L”開放感のある高音域が最もモダンらしさを感じる“C”をラインアップ。多くのメーカーは歌口の形状を変えてさまざまなスタイルの頭部管を製作しているところが多いですが、エマニュエルはテーパーの形状にも注目し、それを変えることによって違いを出しています。



### ルイロットスタイル

“L”“L”の方向性をさらに明確に打ち出したスタイルで、何より美しい音色が魅力。ヴィンテージフルートのスタイルですが、ヴィンテージにありがちな発音の難しさをそれほど感じません。ヴィンテージフルートのサウンドをそのまま味わえるモデルです。



### ゴーベールスタイル

ルイロットスタイルのさらなる発展型で、小ぶりで楕円形のマウスホールが特徴。ルイロットスタイルに比べ、スイートスポットはより狭くなっており、ヴィンテージを突き詰めたスタイル。

- AG……………シルバー製
- AG-14KR……………シルバー製 ライザー / 14Kゴールド
- AG-14KL&R ……シルバー製 リッププレート&ライザー / 14Kゴールド
- ALL-10K……………10Kゴールド製
- ALL-14K……………14Kゴールド製

すべてオーブンプライス

外観、仕様および価格は予告なく変更する場合がございます。